

悦ぶに至れり

嘗て悪性を有する二児の原因を調べたるに一は前者にして一は後者の境遇にあるものなりき而して其影響の及ぶこと多きは普通以上の頭腦を有するものにして愚鈍なる兒は少きを見る惜むべくいたましきことならずや

嗚呼一家の中春風吹き渡り且多少の教育思想を有し幼兒は善良なる事情の下に成長せしめざるべからずとの考あらば如何で今日我兒は不従順なり不正直なり酷薄なりとて歎くことの必要あらんや悪き種蒔きて後悔いんよりは蒔かざる前の注意こそ大切なれ

“Children are like wax to receive impressions, like marble to retain them.”

せんなにでも、なり易い所から云ふと、子供といふ

ものは蜜蠟の様だが、三ツ子の魂百までと云ふ方から見ると、また大理石の様だ。

何故泣かなくなつたでせう

松村 ひさ

私が世話をして居る幼兒の中に今六年五月月になる一人の男の兒があります。此兒は、正直で活潑な善い兒でありました。それに、昨年の夏休後は前と打つて變つた不正直な亂暴な善くない兒になりました。あまり變り方がひどいものですから、其原因を探る爲にある日、親をよんで、うちの様子をさゝました。其親の言ひますに、

私の近所に百軒長屋といふ長屋がついて居ります。そこには、悪い子供が澤山ありますから、いつも遊ばせぬ様にして居りました。ところが、

夏休中ふと一しよにあそびはじめまして、それからといふものは、家内中でどめるのもさかす。

ぬけてまでさるります。しかも、いつもく、泣かされてはかへります。それで親共は、泣いてかへる様のところへ行くな、とどめましたが、やはり皆の目を忍んでは行きます。ところが此頃は、行くことは行きますが、泣いてかへることはやみましたから、まづ世話がない、と思つて居ります。

と。そこで私 はさらに、

一體何故泣かなくなつたでせう。

と問ひました。そうすると、其親は

さあどういふものでござりますか。

と答へました。

私は之に付いて、かやうに考へました。即ち、泣いてかへる間は、まだ此兒が善いものですから、悪

子供に抵抗するとかできないで、まけて泣くのであつて、だんく其悪い子供とあそぶにつれて悪くなり、悪につよくなつたものですから、悪い子供に抵抗する力ができて泣かずともすむ様になつたのでありませう。はたして、此通りであるとすると、子が泣かなくなつた原因を考へて、親たるものは、泣かなければならぬ筈です。そうして嚴に、悪友と交はることを、とめなければならぬ筈です。

ですから親といふものは、たえずなく、子供の様子に注目して一寸した變化でも其原因を考へ、それに相當したしつけをしなければなりません。子供の心と行の上には、いろいろの變化を考なしに見すとして居ると何時の間にか子供はさまざまに變ります。實に、氣を付けなければならぬものではありませんか。